

子ども達が泳げる天然河川を
未来へ手わたそう！



最上小国川ダム建設が強行されています!! 鮎釣りに年間3万人訪れる清流、最上小国川。

漁業権をもつ、小国川漁協は反対を貫いています。
漁協の同意なくダム本体着工はできません。
周辺工事は全く税金のムダになります。

穴あきダムは清流環境や生態系を破壊します。

- 供用6年の最新型穴あきダム「益田川ダム(島根県)」はダム本体と副ダムの間に土砂やヘドロがたまっています。益田川は、工場廃液が流れ込む漁業権がない川。穴あきダムはまだ、小国川のような清流環境につくられた例はありません。
- 県の委員会では検討不足であり深刻な漁業被害も心配される。(河川生物調査事務所 高橋勇夫)
- 穴あきダムはダムの延命策でしかない歴史的な愚行だ。(元京都大防災研所長 今本博健)



ダム本体と副ダムの間にヘドロや土砂が堆積していた。



「環境にやさしい」実績も根拠もない穴あきダム。



中央の堰が土砂堆積、水害の原因。



温泉のケアをしつつ堰を除去し河床土砂除去、橋脚撤去で治水と温泉街の再生を。

赤倉流域の河道改修、温泉街の再生事業こそ 小国川流域の生命と財産を守る。

- 温泉旅館の湯量確保のために県がつくった堰が、川底に土砂をため、川床があがって、水が流れにくくなり、水害を発生させています。
- 赤倉温泉流域は土砂が堆積し、護岸で川を狭めるなど、極めて不自然だ。温泉街を守るには80億円のダムよりも河道改修が先決だ。(新潟大名誉教授 大熊孝 今本博健 桑原英夫)
- 温泉湯脈に影響を与えずに河道掘削等をおこなう事は可能だ。(山大 川辺孝幸)
- 最上町舟形町両町の流域人口推計で、2010年の16,011人から2040年には9,389人へと人口が減ると推定されている。今、如何に持続可能な未来を叶えるかを再考すべき時。

小国川の鮎は、年間22億円の経済効果を流域にもたらしている。ダムで環境が破壊されれば、年10億円の損失になる。(近畿大 有路昌彦研究室)

ダムを建設すれば、「ダムのない清流」という小国川の大きな魅力はなくなる。ダムの建設を中止して、赤倉温泉の再活性化プラン作りに切り替えれば、大きな話題になるとともに、全国から溪流を楽しんだり、「脱ダム」の視察に来たりする人々にぎわうだろう。自然と共生する地域振興こそ未来をつくる。

(元 報道ステーション解説員 高成田 亨)



鮎と清流が交流人口を支えてきたのでは？



天皇献上品、松原鮎の食文化を失って良いのか？

来る10月5,6日 小国川を守ろう! 「穴あきダムと鮎を考える」全国集会を
赤倉温泉で開催予定です。ダムのない治水を叶えましょう!